

(様式第 10)

九州厚生局長 殿

福大病庶 第 130 号  
平成 27 年 10 月 5 日

学校法人 福岡大学  
理事長 田中浩二

福岡大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号
氏 名	学校法人福岡大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

福岡大学病院
--------

3 所在の場所

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45番1号 電話(092)801-1011
-----------------------------------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1. 神経内科 2. 呼吸器科 3. 消化器科 4. 循環器科 5. アレルギー科 6. リウマチ科 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名		
1. 形成外科 2. 美容外科 3. 呼吸器外科 4. 心臓血管外科 5. 小児外科 6	7	
8 9 10 11 12 13	14	
診療実績		

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科 2小児科 3整形外科 4脳神経外科 5皮膚科 6泌尿器科 7産婦人科		
8産科 9婦人科 10眼科 11耳鼻咽喉科 12放射線科 13放射線診断科		
14放射線治療科 15麻酔科 16救急科		

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名		
1. 歯科口腔外科 2 3 4 5 6 7		
歯科の診療体制		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1. こう門科 2. リハビリテーション科 3. 病理診断科 4.	5	6	7
8 9 10 11 12 13 14			
15 16 17 18 19 20 21			

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
60 床	床	床	床	855 床	915 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	437人	35人	442.5人	看護補助者	61人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	10人	2人	10.1人	理学療法士	25人	臨床検査技師	72人
薬 剤 師	53人	0人	53.0人	作業療法士	9人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	4人	その他	0人
助産師	43人	0人	43.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	955人	6人	960.4人	臨床工学技士	14人	医療社会事業従事者	3人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	29人
歯科衛生士	1人	1人	2.0人	歯科技工士	1人	事務職員	144人
管理栄養士	11人	3人	14.0人	診療放射線技師	47人	その他の職員	27人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年4月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	27人	眼科専門医	8人
外科専門医	34人	耳鼻咽喉科専門医	7人
精神科専門医	7人	放射線科専門医	11人
小児科専門医	15人	脳神経外科専門医	13人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	17人
泌尿器科専門医	7人	麻酔科専門医	18人
産婦人科専門医	14人	救急科専門医	9人
		合 計	193人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	751.4人	5.8人	757.2人
1日当たり平均外来患者数	1,496.5人	54.6人	1,551.1人
1日当たり平均調剤数	1,188 剤		
必要医師数	168人		
必要歯科医師数	4人		
必要薬剤師数	25人		
必要(准)看護師数	428人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

### 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備	概 要		
集中治療室	m <sup>2</sup> 358.49	鉄筋 コンクリ ート造	病床数	14床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台数	12.80m <sup>2</sup> 6台	病床数	1床		
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 [共用室の場合] 共用する室名	16.80m <sup>2</sup>				
化学検査室	307.80m <sup>2</sup>	同上	(主な設備) 生化学自動分析装置、全自動化学発光免疫測定装置			
細菌検査室	109.90m <sup>2</sup>	同上	(主な設備) 自動血液培養・抗酸菌培養装置、嫌気チャンバー、全自動細胞分析装置			
病理検査室	204.23m <sup>2</sup>	同上	(主な設備) 電動ミクロトーム、自動包埋脱水装置、凍結切片作成機クリオスタット、自動染色装置、遺伝子解析装置			
病理解剖室	132.80m <sup>2</sup>	同上	(主な設備) 解剖台、カラー撮影装置、スライサー			
研究室	5,367.23m <sup>2</sup>	同上	(主な設備) 超小型カラーテレビ 他			
講義室	372.90m <sup>2</sup>	同上	室数	2室	収容定員	400人
図書室	2,246.16m <sup>2</sup>	同上	室数	3室	蔵書数	130,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	69.0%	逆紹介率	60.7%
算出根拠	A: 紹介患者の数	15,681人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	15,536人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,971人	
	D: 初診の患者の数	25,588人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。





(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	43人	・膿疱性乾癬	18人
・多発性硬化症	55人	・広範脊柱管狭窄症	25人
・重症筋無力症	86人	・原発性胆汁性肝硬変	68人
・全身性エリテマトーデス	136人	・重症急性膵炎	5人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	81人
・再生不良性貧血	16人	・混合性結合組織病	17人
・サルコイドーシス	50人	・原発性免疫不全症候群	1人
・筋萎縮性側索硬化症	20人	・特発性間質性肺炎	48人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	77人	・網膜色素変性症	26人
・特発性血小板減少性紫斑病	48人	・プリオン病	3人
・結節性動脈周囲炎	19人	・肺動脈性肺高血圧症	4人
・潰瘍性大腸炎	219人	・神経線維腫症	35人
・大動脈炎症候群	18人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	5人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	11人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6人
・脊髄小脳変性症	75人	・ライソゾーム病	8人
・クローン病	140人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	12人	・脊髄性筋萎縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	147人	・球脊髄性筋萎縮症	1人
・アミロイドーシス	2人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	14人
・後縦靭帯骨化症	72人	・肥大型心筋症	5人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	79人	・ミトコンドリア病	3人
・ウェゲナー肉芽腫症	2人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	10人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	45人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	2人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	31人	・黄色靭帯骨化症	9人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	84人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・新生児特定集中治療室退院調整加算(1・2・3)
・歯科外来診療環境体制加算	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・歯科診療特別対応連携加算	・病棟薬剤業務実施加算
・特定機能病院入院基本料(一般病棟7対1入院基本料)	・データ提出加算2
・特定機能病院入院基本料(精神病棟13対1入院基本料)	・地域歯科診療支援病院入院加算
・臨床研修病院入院診療加算	・救命救急入院料1
・救急医療管理加算	・救命救急入院料4
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料3
・妊産婦緊急搬送入院加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・診療録管理体制加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・急性期看護補助体制加算(50対1)	・新生児治療回復室入院医療管理料
・看護補助加算2(50対1)	・小児入院医療管理料1
・療養環境加算	
・重症者等療養環境特別加算	
・無菌治療室管理加算2	
・緩和ケア診療加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・がん診療連携拠点病院加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算含む)	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・退院調整加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・高度難聴指導管理料	・検体検査管理加算(IV)
・糖尿病合併症管理料	・遺伝カウンセリング加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・植込型心電図検査
・がん患者指導料1	・胎児心エコー法
・がん患者指導料2	・時間内歩行試験
・がん患者指導料3	・ヘッドアップティルト試験
・外来緩和ケア管理料	・皮下連続式グルコース測定
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・神経学的検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・補聴器適合検査
・外来リハビリテーション診療料	・コンタクトレンズ検査料1
・外来放射線照射診療料	・小児食物アレルギー負荷検査
・ニコチン依存症管理料	・内服・点滴誘発試験
・地域連携診療計画管理料	・センチネルリンパ節生検(併用)
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅱ)	・センチネルリンパ節生検(単独)
・がん治療連携計画策定料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・がん治療連携管理料	・画像診断管理加算2
・認知症専門診断管理料	・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・CT撮影及びMRI撮影
・薬剤管理指導料	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料1	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料2	・大腸CT撮影加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・心臓MRI撮影加算
・歯科治療総合医療管理料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・持続血糖測定器加算	・外来化学療法加算1
・造血器腫瘍遺伝子検査	・無菌製剤処理料

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算を含む】	・網膜再建術
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算を含む】	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・運動器リハビリテーション料(Ⅱ)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算を含む】	・上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る)、下顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る)
・がん患者リハビリテーション料(Ⅰ)	・乳がんセンチネルリンパ節加算1
・歯科口腔リハビリテーション料2	・乳がんセンチネルリンパ節加算2
・認知症・認知行動療法2	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・精神科作業療法	・同種死体肺移植術
・精神科ショート・ケア「大規模なもの」	・生体部分肺移植術
・精神科デイ・ケア「大規模なもの」	・経皮的冠動脈形成術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・医療保護入院等診療料	・経皮的冠動脈ステント留置術
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・経皮的中隔心筋焼灼術
・透析液水質確保加算1	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・一酸化窒素吸入療法	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・CAD/CAM冠	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・歯科技工加算	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・経皮的大動脈遮断術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・ダメージコントロール手術
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)	・体外衝撃波胆石破碎術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術	・腹腔鏡下肝切除術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・生体部分肝移植術
・羊膜移植術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・同種死体腎移植術	・
・生体腎移植術	・
・膀胱水圧拡張術	・
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術	・
・輸血管理料(Ⅱ)	・
輸血適正使用加算	・
貯血式自己血輸血管理体制加算	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・麻酔管理料(Ⅰ)	・
・麻酔管理料(Ⅱ)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・直線加速器による定位放射線治療	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算(その他)	・
・保険医療機関間の連携による病理診断	・
・病理診断管理加算2	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・先天性難聴の遺伝子診断	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	<p>1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。</p> <p>2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。</p>
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	腫瘍・血液・感染症内科、泌尿器、乳腺、外科病理、腎、皮膚、消化器、乳腺画像、脳外科、肺癌および剖検の各カンファレンス 計180回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 26 例 / 剖検 8.5%

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
HDL新生作用をもつ次世代型遺伝子導入ペプチドの開発と臨床応用	上原 吉就	循環器内科	1,300,000円	補委 日本学術振興会
腎動脈アブレーションによる交感神経遮断と心不全治療効果の解明	小川 正浩	循環器内科	1,560,000円	補委 日本学術振興会
新規アポA-I模倣ペプチド(FAMP):新たな動脈硬化の診断・治療法の確立	朔 啓二郎	循環器内科	1,560,000円	補委 日本学術振興会
アポA-I模倣ペプチドによる末梢動脈疾患の多面的治療戦略	今泉 聡	循環器内科	1,170,000円	補委 日本学術振興会
新規アポ蛋白A-I模倣ペプチド(改良型FAMP)の開発と動脈硬化診断・治療への応用	朔 啓二郎	循環器内科	3,000,000円	補委 文部科学省
新しい動脈硬化診断指標:HDL機能測定の確立と臨床意義の解明	瀬川 波子	循環器内科	1,560,000円	補委 日本学術振興会
リンパ管筋腫症に対するシロリムスの安全性確立のための医師主導治験	渡辺 憲太朗 (研究分担者)	呼吸器内科	1,000,000円	補委 厚生労働省
びまん性肺疾患に関する調査研究	渡辺 憲太朗 (研究分担者)	呼吸器内科	500,000円	補委 厚生労働省
びまん性肺疾患に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究	渡辺 憲太朗 (研究分担者)	呼吸器内科	500,000円	補委 厚生労働省
慢性閉塞性肺疾患患者における気道感染予防のためのセルフプログラム開発に関する研究	藤田 昌樹 (研究分担者)	呼吸器内科	100,000円	補委 文部科学省 基盤研究C
新規遺伝子改変動物とiPSを利用した分子病態に基づくてんかんの革新的治療開発	廣瀬 伸一	小児科	7,300,000円	補委 日本学術振興会
パーソナルゲノム解析によるてんかんの分子生物学的発症機序の解明	廣瀬 伸一	小児科	4,100,000円	補委 日本学術振興会
MC2Rノックアウトマウスを利用した点頭てんかんの神経科学的病因解析	廣瀬 伸一	小児科	1,452,000円	補委 日本学術振興会
難治性てんかんに遺伝子修復で挑む	廣瀬 伸一	小児科	1,000,000円	補委 日本学術振興会
Dravet(ドラベ)症候群患者由来iPS細胞を用いた認可医薬品スクリーニングによる革新的な医薬品開発のシーズ探索研究	廣瀬 伸一	小児科	36,360,000円	補委 厚生労働省
脳形成異常を主とする発達機能障害の病因・病態と治療に関する研究	廣瀬 伸一 (研究分担者)	小児科	4,000,000円	補委 厚生労働省
希少難治性てんかんのレジストリ構築による総合的研究	廣瀬 伸一 (研究分担者)	小児科	400,000円	補委 厚生労働省

小計 17

HcN2遺伝子異常により発症する熱性けいれんのiPS細胞を用いた病態解明	中村 友紀	小児科	1,970,000円	補委	日本学術振興会
最新手術手技修練を支援する外科手術教育用ヒューマノイド作成	岩崎 昭憲	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	5,460,000円	補委	文部科学省
肺癌における変異KRAS制御末梢分泌型micro RNAの解析	吉田 康浩	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	2,600,000円	補委	厚生労働省
肉腫幹細胞を標的とした類上皮肉腫治療の新構築	西尾 淳	整形外科	1,500,000円	補委	文部科学省
標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第三相臨床研究	井上 亨	脳神経外科	2,000,000円	補委	厚生労働省
日本人の人工弁置換術後における抗血小板療法の有効性及び安全性に関する臨床研究	田代 忠 (研究分担者)	心臓血管外科	150,000円	補委	文部科学省
食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究	今福 信一	皮膚科	630,000円	補委	厚生労働省
神経皮膚症候群に関する診療科横断的検討による科学的根拠に基づいた診療指針の確立	今福 信一	皮膚科	1,000,000円	補委	厚生労働省
「腎移植患者のHTLV-1感染とHAM発症に関する研究」	中村 信之 (研究分担者)	泌尿器科	400,000円	補委	厚生労働省
卵巣癌を対象とした分子標的治療薬BK-UMの臨床開発	宮本 新吾 (研究分担者)	産婦人科	36,500,000	補委	文部科学省
HB-EGFを標的とする治療薬BK-UMの適応を診断するコンパニオン診断薬の作製	宮本 新吾 (研究分担者)	産婦人科	4,000,000	補委	文部科学省
腹腔内転移癌を対象としたHB-EGFを分子標的とするがん治療薬BK-UMの第2相試験	宮本 新吾 (研究分担者)	産婦人科	9,950,000	補委	厚生労働省
HB-EGF標的治療薬適応のコンパニオン診断薬作製を目指した遺伝子探索	宮本 新吾	産婦人科	2,000,000	補委	文部科学省
CD36を標的としたがん治療の創薬開発	宮本 新吾	産婦人科	1,400,000	補委	文部科学省
子宮内膜症における接着性の解明とプロゲステロン感受性の検討	伊東 裕子	産婦人科	800,000	補委	文部科学省
HB-EGFを標的とするがん治療薬の適応を診断するコンパニオン診断薬の開発	宮本 新吾	産婦人科	2,000,000	補委	公益財団法人 柿原科学技術 研究財団科学 技術研究助成
アデノウイルス眼感染症の新しい薬物治療の探求と臨床応用化に関する研究	内尾 英一	眼科	1,200,000円	補委	文部科学省
重症未熟児網膜症に対するラニビズマブ(ルセンティス)眼内注射後の長期経過	林 英之	眼科	3,000,000円	補委	文部科学省
難治性聴覚障害に関する調査研究	中川 尚志	耳鼻咽喉科	18,661,000円	補委	厚生労働省
MRエラストグラフィーによる臓器硬度測定:慢性腎疾患および慢性膀胱炎への臨床応用	吉満 研吾	放射線科	1,200,000円	補委	文部科学省

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業:身体活動の健康科学に関する総合研究	吉満 研吾	放射線科	400,000円	補委	文部科学省
高齢者の化学療法-新しい全身状態の評価基準および薬物動態に基づく治療戦略	高松 泰	腫瘍・血液・感染症内科	389,801円	補委	日本学術振興会
成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)に対する新規治療を開発する医師主導治験	石塚 賢治	腫瘍・血液・感染症内科	38,000,000円	補委	厚生労働省
臨床試験、発症ハイリスク cohort、ゲノム解析を統合したアプローチによるATL標準治療法の開発	石塚 賢治	腫瘍・血液・感染症内科	3,000,000円	補委	厚生労働省
HTLV-1疫学研究及び検査法の標準化に関する研究における陽転者の追跡調査	石塚 賢治	腫瘍・血液・感染症内科	2,000,000円	補委	厚生労働省
成人T細胞性白血病/リンパ腫(ATLL)に対するNY-ESO-1+AS15 ASCIのモガムリズマブ併用での安全性と有効性探索のための医師主導治験(第1/Ⅱ相)	石塚 賢治	腫瘍・血液・感染症内科	3,000,000円	補委	厚生労働省
モガムリズマブ研究事業	石塚 賢治	腫瘍・血液・感染症内科	500,000円	補委	厚生労働省
腹腔内転移癌を対象としたHB-EGFを分子標的とするがん治療薬BK-UMの第2相試験	石塚 賢治	腫瘍・血液・感染症内科	450,000円	補委	厚生労働省
間脳下垂体機能障害における診療ガイドライン作成に関する研究	柳瀬 敏彦	内分泌・糖尿病内科	400,000円	補委	厚生労働省
IgG4関連腎臓病における免疫応答の解析	中島 衡	腎臓・膠原病内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
「IgG4関連疾患」の病態解明に向けた自然免疫からの新戦略	中島 衡	腎臓・膠原病内科	300,000	補委	日本学術振興会
先天性横紋筋融解症特異的iPS細胞の疾患モデルを用いた治療法の開発	安野 哲彦	腎臓・膠原病内科	1,400,000	補委	日本学術振興会
希少性難治性疾患-神経・筋難病疾患の進行抑制治療効果を得るための新たな医療機器、生体電位等で随意コントロールされた下肢装着型補助ロボット(HAL-HN01)に関する医師主導治験の実施研究	坪井 義夫	神経内科	10,800,000	補委	厚生労働省
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班	坪井 義夫	神経内科	800,000	補委	厚生労働省
Perry症候群の病態解明研究	三嶋 嵩靖	神経内科	1,400,000	補委	文部科学省
脳主幹動脈病変を有する症例の高次機能の程度とその特徴に関する検討	緒方 利安	神経内科	500,000	補委	公益法人臨床研究奨励基金
腹腔内転移癌を対象としたHB-EGFを分子標的とする治療薬BK-UMの第2相試験	山下 裕一	消化器外科	300,000円	補委	厚生労働省
膵癌に対する化学療法感受性の検討-術前化学療法の確率を目指して-	佐々木 隆光	消化器外科	1,000,000円	補委	文部科学省
ケタミンの急性痛、慢性痛に対する異なる鎮痛作用機序の検討	山浦 健	麻酔科	2,895,472	補委	文部科学省
新しい酸素投与装置の開発	原賀 勇壮	麻酔科	500,000	補委	日本学術振興会

水溶性フラーレン/ユビキノンを 用いた変形性関節症の新規局所 療法の開発	大谷 泰志	歯科口腔外科	9100,000円	補 委	(独)日本学術 振興会
嚥下圧と舌圧を用いた神経筋疾 患患者の嚥下記能評価に関する 研究	梅本 丈二	歯科口腔外科	1,170,000円	補 委	(独)日本学術 振興会
麻黄湯によるオートファジー機能強 化を介したウィルス感染防御	鍋島 茂樹	総合診療部	1,690,000円	補 委	文部科学省
微小乳頭状および簇出型浸潤様 式の機序に関する包括的研究 (平成24～平成26年度)	鍋島 一樹	病理部	2,200,000円	補 委	文部省科学研 修費 基 盤研究(C)
平成26年度石綿関連疾患に係る 医学的所見の解析調査業務(入 札業務)－FISH法を用いた中皮 腫診断法の開発に関する調査編	鍋島 一樹	病理部	300,000円	補 委	環境省
平成26年度石綿関連疾患に係る 医学的所見の解析調査業務(入 札業務)－中皮腫診断における 体腔液細胞診の意義	鍋島 一樹	病理部	1,000,000円	補 委	環境省
DPC (Disease Procedure Combination)導入下でのアルブミ ン使用適正化推進方策	熊川みどり	輸血部	744,000円	補 委	厚生労働省

合計 64

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等  
が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なも  
のを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又  
は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	三浦 伸一郎	循環器内科	Ability of the new AT1 receptor blocker azilsartan to block angiotensin II-induced AT1 receptor activation after wash-out.	J Renin Angiotensin Aldosterone Syst 15(1):7-12, 2014
2	末松 保憲	循環器内科	Associations between the consumption of different kinds of seafood and out-of-hospital cardiac arrests of cardiac origin in Japan.	IJC Heart & Vessels 8-14, 2014
3	中村 歩	循環器内科	Contrast between innovator drug- and generic drug-induced renal dysfunction on coronary angiography (CONTRAST study).	Heart Vessels 29(5):603-610, 2014
4	永田 済	循環器内科	Comparison of the efficacy and safety of single-pill fixed-dose combinations of olmesartan/azelnidipine and valsartan/amlodipine in patients with hypertension (RENOVATE Study).	Exp Clin Cardiol 20(1):1920-1938, 2014
5	宮瀬 祐依子	循環器内科	The ratio of low-frequency to high-frequency in ambulatory electrocardiographic monitoring immediately before coronary angiography as a predictor of the presence of coronary artery disease.	J Clin Med Res 6(1):36-43, 2014
6	志賀 悠平	循環器内科	Very rare case of large obstructive myxofibrosarcoma of the right ventricle assessed with multi-diagnostic imaging techniques.	Intern Med 53(7):739-42, 2014
7	中村 歩	循環器内科	Is pentraxin 3 a biomarker, a player, or both in the context of coronary atherosclerosis and metabolic factors?	Heart Vessels Epub ahead of print, 2014
8	清水 知彦	循環器内科	Rosvastatin activates ATP-binding cassette transporter A-1 dependent efflux ex vivo and promotes reverse cholesterol transport in macrophage cells in mice fed a high-fat diet.	Arterioscler Thromb Vasc Biol 34(10):2246-2253, 2014
9	志賀 悠平	循環器内科	Efficacy and Safety of combination therapy of high-dose losartan and hydrochlorothiazide in patients with hypertension.	J Renin Angiotensin Aldosterone Syst Epub ahead of print, 2014
10	高田 耕平	循環器内科	Impact of cigarette smoking cessation on high-density lipoprotein functionality.	Circulation Journal 25;78(12):2955-62, 2014
11	藤見 幹太	循環器内科	Effects of Cardiac Rehabilitation in Patients with Cardiac Resynchronization Therapy.	Exp Clin Cardiol. 20:3565-3568, 2014
12	則松 賢次	循環器内科	Assessment of the circadian variation in the anticoagulant effect of rivaroxaban using a novel automated microchip flow-chamber system for the quantitative evaluation of thrombus formation.	IJC Heart & Vessels. 218-220, 2014
13	三浦 伸一郎	循環器内科	Induction of endothelial tube formation and anti-inflammation by newly developed apolipoprotein A-I mimetic peptide.	IJC Metabolic & Endocrine 70-72, 2014
14	八尋 英二	循環器内科	Improved survival rate after myocardial infarction using an inducible cholesterol efflux peptide: FAMP.	Heart Vessels 135-137, 2014
15	山本 智彦	循環器内科	Association between major adverse cardiovascular events and brachial-ankle pulse wave velocity and a difference in blood pressure between arms after percutaneous coronary intervention.	Exp Clin Cardiol. 4849-4855, 2014
16	山本 智彦	循環器内科	A relative difference in blood pressure between arms by synchronal measurement is associated with hypertension.	Exp Clin Cardiol. 6574-6578, 2014

小計 16

17	河村 彰	循環器内科	Azelnidipine-, but not amlodipine-, induced secretion of vascular endothelial growth factor from smooth muscle cells promotes endothelial tube formation.	Cardiol Res 145-150, 2014
18	福田 佑介	循環器内科	Effects of treatment with a combination of cardiac rehabilitation and bosentan in patients with pulmonary Langerhans cell histiocytosis associated with pulmonary hypertension.	European Journal of Preventive Cardiology 21(12):1481-3, 2014
19	入江 真	消化器内科	A patient with drug-induced hepatic injury caused by a switch to generic bezafibrate	American Journal of Internal Medicine Vol 2(4):63-66,2014
20	平野玄竜	消化器内科、 ウイルス性肝炎・肝癌先進 医療研究講座	Why is Radiofrequency Ablation Therapy Applied for Hepatocellular Carcinoma up to 3 Nodules and Smaller than 3 cm in Tumor Size?	Hepato-Gastroenterology Vol 1, 2239-2244,2014
21	釈迦堂 敏	消化器内科、 ウイルス性肝炎・肝癌先進 医療研究講座	Interleukin 28B polymorphism predicts interferon plus ribavirin treatment outcome in patients with hepatitis C virus-related liver cirrhosis: A multicenter retrospective study in Japan	Hepatology Research Vol 44, 983-992,2014
22	釈迦堂 敏	消化器内科、 ウイルス性肝炎・肝癌先進 医療研究講座	Pilot Study of Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy with Interferon-beta and 5-fluorouracil: A New Chemotherapy for Patients with Advanced Hepatocellular Carcinoma	Hepato-Gastroenterology Vol 131(61), 557-562,2014
23	森原 大輔	消化器内科、 ウイルス性肝炎・肝癌先進 医療研究講座	Adjusting the starting dose of telaprevir according to renal function decreases adverse effects and affects the sustained virological response rate	European Journal of Gastroenterology & Hepatology Vol 27(1):55-64, 2015
24	藤田 昌樹	呼吸器内科	New therapies for chronic obstructive pulmonary disease lung regeneration	World J Respirol Vol5(1) 34-39,2015
25	石井 寛	呼吸器内科	Chest computed tomography findings in patients with angioimmunoblastic T-cell lymphoma	J. Respir Investig Vol52(4) 265-268,2014
26	石井 寛	呼吸器内科	Two cases of pulmonary lymphangiomyomatosis in postmenopausal women.	Respir Investig Vol52(4) 261-264,2014
27	石井 寛	呼吸器内科	Sunitinib-related interstitial pneumonia following treatment with temsirolimus: A case of possible recall phenomenon	Int J Urol Vol21(4) 420-421,2014
28	廣田 貴子	呼吸器内科	Histological evolution of pleuroparenchymal fibroelastosis	Histopathology Vol66(4) 545-554,2015
29	原田 康平	精神神経科	A comparison of the characteristics of suicide attempters with and without psychiatric consultation before their suicidal behaviours: a cross-sectional study	BMC Psychiatry 14:146, 2014
30	廣瀬 伸一	小児科	Mutant GABA <sub>A</sub> receptor subunits in genetic (idiopathic) epilepsy	Progress in Brain Research (vol.213;55-85,2014)
31	井上 貴仁	小児科	Early onset and focal spike discharges as indicators of poor prognosis for myoclonic-astatic epilepsy	Brain Dev (vol.36(7);613-619,2014)
32	友納 優子	小児科	The Kick-In System: A Novel Rapid Knock-In Strategy	PLOS ONE (vol.9(2);e88549,2014)
33	石井 敦士	小児科	Association of nonsense mutation in <i>GABRG2</i> with abnormal trafficking of GABA <sub>A</sub> receptors in severe epilepsy	Epilepsy Research (vol.108(3);420-432,2014)
34	白石 武史	呼吸器・乳腺内分泌・小児 外科	Pulmonary resection after chemoradiotherapy for advanced non-small cell lung cancer: the impact of presurgical radiation therapy.	Surg Today. Jan: 44(1)123-30,2014
35	山下 眞一	呼吸器・乳腺内分泌・小児 外科	Video-assisted thoracic surgery for lung cancer: republication of a systematic review and a proposal by the guidelines committee of the Japanese Association for Chest Surgery 2014.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 62:701-5,2014

36	吉田 康浩	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	IKK $\beta$ inhibitor in combination with bortezomib induces cytotoxicity in breast cancer cells.	International Journal of Oncology. 44: 1171-1176, 2014
37	吉田 康浩	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	Ten cases of resected solitary pulmonary metastases arising from gastric cancer.	Asian Cardiovascular & Thoracic Annals. 22(5):578-582, 2014
38	榎本 康子	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	Downregulation of DYRK2 can be a predictor of recurrence in early stage breast cancer.	Tumour Biol. 35: 11021-5, 2014
39	西尾 淳	整形外科	Soft tissue perineurioma of the foot with 10q24 rearrangements: unique MRI features with histopathologic correlation	Skeletal Radiology43(7): 1017-1022, 2014
40	西尾 淳	整形外科	Atypical Lipomatous Tumor with Structural Rearrangements Involving Chromosomes 3 and 8	Anticancer Research International Journal of Cancer Research and Treatment34:3073-
41	西尾 淳	整形外科	Calcifying aponeurotic fibroma of the finger in an elderly patient; CT and MRI findings with pathologic correlation	Experimental and Therapeutic Medicine8: 841-843, 2014
42	西尾 淳	整形外科	Diffuse-type Tenosynovial Giant Cell Tumor with t(1;17)(p13;p13) and Trisomy 5	In Vivo28: 949-952, 2014
43	柴田 達也	整形外科	Giant cell tumor of the patella: An uncommon cause of anterior knee pain	Molecular and clinical oncology3: 207-211, 2015
44	井田 敬大	整形外科	Prevalance and characteristics of cam-type femoroacetabular deformity in 100 hips with symptomatic acetabular dysplasia: a case control study	Journal of Orthopaedic Surgery and Research9:93-100, 2014
45	吉村 一朗	整形外科	The relationship between the lesion-to-ankle articular length ratio and clinical outcomes after bone marrow stimulation for small osteochondral lesions of the talus	Journal of Orthopaedic Science2015 Feb 17. [Epub ahead of print]
46	西尾 淳	整形外科	FDG PET/CT and MRI Imaging of CD34-Negative Soft-tissue Solitary Fibrous Tumor with ANB2-STAT6 Fusion Gene	Anticancer Research35: 967-972, 2015
47	西尾 淳	整形外科	Periosteal chondroma of the distal tibia: Computed tomography and magnetic resonance imaging characteristics and correlation with histological findings	MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY3: 677-681, 2015
48	西尾 淳	整形外科	Immunohistochemical, Cytogenetic, and Molecular Cytogenetic Characterization of Both Components of a Dedifferentiated Liposarcoma: Implications for Histogenesis	Anticancer Research International Journal of Cancer Research and Treatment35(1):345-
49	加島 伸浩	整形外科	Biomechanical comparison of the fixation after curved periacetabular osteotomy using titanium and bioabsorbable screws	Hip International25(2):164-167, 2015
50	大川 将和	脳神経外科、神経内科	Long-term Morbidity and Mortality of Carotid Endarterectomy in patients with End-stage Renal Disease Receiving Hemodialysis	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases 23(3):545-549,2014
51	岩朝 光利	救命救急センター、脳神経外科	Analysis of Combined Coiling and Neuroendoscopy in the Treatment of Intraventricular Hemorrhage Due to Ruptured Aneurysm	Acta Neurochir Suppl 119:49-52, 2014
52	大川 将和	脳神経外科	Identification of Plaque Location Using Indocyanine Green Videoangiography During Carotid Endarterectomy	Neurovascular Interventions Acta Neurochirurgica Supplement 119:97-
53	湧田 尚樹	脳神経外科、ウイーン大学	Endoscopic Endonasal Surgical Approach to the Oculomotor Trigone from the Cavernous Sinus	Neurol Med Chir (Tokyo) 54(8):612-616, 2014
54	福田 健治	脳神経外科、国立循環器病研究センター脳神経外科	Relationship between Carotid Artery Remodeling and Plaque Vulnerability with T1-Weighted MR Imaging	Journal of Stroke and Cerebrovascular Disease 23:1462-1470, 2014

55	渡邊 淳子	リハビリテーション部、 神経内科、脳神経外科	Improvement of Cognitive Function after Carotid Endarterectomy-A new Strategy for the Evaluation of Cognitive Function	Journal of Stroke and Cerebrovascular Disease 23(6):1332-1336, 2014
56	松本 順太郎	脳神経外科、神経内科、 放射線科	Do Characteristics of Dissection Differ between the Posterior Inferior Cerebellar Artery and the Vertebral Artery?	Journal of Stroke and Cerebrovascular Disease 23(10): 2857-2861,2014
57	福田 健治	脳神経外科	Posterior circulation hyperperfusion syndrome after superficial temporal artery-superior cerebellar artery bypass for vertebral artery dissection	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases 23(3):583-586, 2014
58	福田 健治	脳神経外科、国立循環器病 研究センター脳神経外科	Utility of Intraoperative Fetal Heart Rate Monitoring for Cerebral Arteriovenous Malformation Surgery during Pregnancy	Neurol Med Chir (Tokyo). 54:819-823, 2014
59	大住 真敬	心臓血管外科	Safety and efficacy of ascending aorta cannulation during repair of acute type A aortic dissection	Gen Thorac Cardiovasc Surg Vol. 62(5):296-300, 2014
60	和田 秀一	心臓血管外科	Risk factors in the treatment of abdominal aortic aneurysms in the endovascular ERA	Ann Thorac Cardiovasc Surg Vol. 20(4):299-303, 2014
61	和田 秀一	心臓血管外科	Direct and transapical central cannulation for acute type A aortic dissection	Ann Vasc Dis Vol. 7(3):286-291, 2014
62	田代 忠	心臓血管外科	Four-stitch side-to-side anastomosis for sequential coronary artery bypass grafting	Ann Thorac Surg Ann Thorac Surg Ann Thorac Surg Vol. 99(3):1092-1094, 2015
63	内藤 玲子	皮膚科、再生・移植医学	Edaravone, a free radical scavenger, accelerates wound healing in diabetic mice.	WOUNDS Vol 26(6) 163-171、 2014
64	柴山 慶継	皮膚科、病理学科	A case of mycobacterium abscessus infection presenting as a cystic lesion in an insulin injection site in a diabetic patient.	J Dermatol Vol 41(5): 469-470、 2014
65	古賀 文二	皮膚科、病理学科	Anthropometric characteristics and comorbidities in Japanese patients with neurofibromatosis type 1: a single institutional case-control study.	J Dermatol Vol 41(10) 885-889、 2014
66	伊藤 宏太郎	皮膚科	An imported case of cutaneous leishmaniasis caused by Leishmania (Leishmania) donovani in Japan.	J Dermatol Vol41(10) 926-928、 2014
67	高橋 聡	皮膚科	Sentinel node biopsy for high-risk cutaneous squamous cell carcinoma.	Eur J Surg Oncol Vol40(10) 1256-1262、 2014
68	今福 信一	皮膚科、麻酔科	One-year follow-up of zoster-associated pain in 764 immunocompetent patients with acute herpes zoster treated with famciclovir. (FAMILIAR study)	J Eur Acad Dermatol Venereol Vol28(12) 1716-1722、 2014
69	柴山 慶継	皮膚科	Comparison of facial predilection sites for cutaneous squamous cell carcinoma and actinic keratosis in Japanese patients.	J Dermatol Vol41(12) 1102-1105、 2014
70	古賀 文二	皮膚科、病理学科	Spontaneous regression of an epidermolysis bullosa nevus on the sole.	J Dermatol Vol42(1) 37-39、2015
71	柴山 慶継	皮膚科	Role of sentinel lymph node biopsy in patients with Merkel cell carcinoma: statistical analysis of 403 reported cases.	Int J Clin Oncol Vol20(1) 188-193、2015
72	宮田 康平	産婦人科	Contribution of transcription factor, SP1, to the promotion of HB-EGF expression in defense mechanism against the treatment of irinotecan in ovarian clear cell carcinoma	Cancer Medicine (3(5):1159-1169, 2014)
73	ファンジェーン	眼科	Anti-adenoviral effects of ganciclovir in vitro in types inducing keratoconjunctivitis confirmed by quantitative polymerase chain reaction methods	Clin Ophthalmol Vol8 315~320、2014

74	品川 喜紳	放射線科	Optimization of scanning parameters for MR elastography at 3.0 T clinical unit: volunteer study	Jpn J Radiol 32(7): 441-446 2014
75	野々熊 真也	放射線科	Evaluation of regional cerebral glucose metabolism in patients with malignant lymphoma of the body using statistical image analysis	Ann Nucl Med 28: 950-960 2014
76	吉満 研吾	放射線科	Transarterial chemoembolization using iodized oil for unresectable hepatocellular carcinoma: perspective from multistep hepatocarcinogenesis	Hepat Med 6: 89-94 2014
77	猪狩 洋介	腫瘍・血液・感染症内科	Safety and pharmacokinetic evaluation of repeated intravenous administration of palonosetron 0.75 mg in patients receiving highly or moderately emetogenic chemotherapy.	Support Care Cancer 22(7): 1959-1964, 2014
78	工並 直子	腫瘍・血液・感染症内科	Promise of combining a Bcl-2 family inhibitor with bortezomib or SAHA for adult T-cell leukemia/lymphoma.	Anticancer Research 34(10): 5287-5294, 2014
79	野見山 崇	内分泌・糖尿病内科	Exendin-4, a glucagon-like peptide-1 receptor agonist, attenuates prostate cancer growth.	Diabetes 63(11): 3891-905, 2014
80	野見山 崇	内分泌・糖尿病内科	Dipeptidyl peptidase-4 inhibitor linagliptin attenuates neointima formation after vascular injury.	Cardiovasc Diabetol. 13(1):154-161, 2014
81	柳瀬 敏彦	内分泌・糖尿病内科	Prognosis of primary aldosteronism in Japan: results from a nationwide epidemiological study.	Endocrine J 61(1):35-40, 2014
82	安野 哲彦	腎臓・膠原病内科	Distinct cytokine mRNA expression pattern in immunoglobulin G4-related kidney disease associated with renal cell carcinoma.	Clin Kidney J 7;269-274, 2014.
83	安野 哲彦	腎臓・膠原病内科	Functional analysis of iPSC-derived myocytes from a patient with carnitine palmitoyltransferase II deficiency.	Bioche Bioph Res Comm 448; 175-181, 2014.
84	三宅 勝久	腎臓・膠原病内科	Parasites alter the pathological phenotype of lupus nephritis.	Autoimmunity 47:538-547, 2014
85	深江 治郎	神経内科	Serum Uric Acid Concentration is Linked to Wearing-off Fluctuation in Japanese Parkinson's Disease Patients.	J Parkinsons Dis (4: 499-505, 2014)
86	藤岡 伸助	神経内科	A familial form of parkinsonism, dementia, and motor neuron disease: a longitudinal study.	Parkinsonism Relat Disord (20(11):1129-34, 2014)
87	藤岡 伸助	神経内科	DCTN1 mutations and progressive supranuclear palsy-like phenotype.	JAMA Neurol (71(5):655, 2014)
88	緒方 利安	神経内科	Outcome of 312 Japanese patients with carotid endarterectomy and factors associated with cardiovascular events—a single-center study in Japan.	J Stroke Cerebrovasc Dis (23:529-533,2014)
89	緒方 利安	神経内科	Gastrointestinal bleeding in acute ischemic stroke: Recent trends from the fukuoka stroke registry.	Cerebrovasc Dis Extra (4:156-164,2014)
90	津川 潤	神経内科	Recurrent Unilateral Headache Associated with SAPHO syndrome.	Intern Med (53: 1559-62, 2014)
91	津川 潤	神経内科	Neuro-Behcet's disease with multiple ring-enhanced brain lesions.	Neurology and Clinical Neuroscience (2: 63, 2014)
92	木村 聡	神経内科	Revascularization for acute ischemic stroke is safe for rivaroxaban users.	J Stroke Cerebrovasc Dis. (23(9):e427-31.2014 )

93	藤岡 伸助	神経内科	Update on novel familial forms of Parkinson's disease and multiple system atrophy.	Parkinsonism Relat Disord (20 Suppl 1:S29-34, 2014)
94	山名 一平	消化器外科	Free Jejunal Graft Repair after Pharyngo-Laryngo-Esophagectomy-Risk Factor Analysis for Postoperative Dysphagia	Ann Thorac Cardiovasc Surg Vol 20:1-5,2014
95	新屋 智志	消化器外科	Procalcitonin as a useful biomarker for determining the need to perform emergency biliary drainage in cases of acute cholangitis	J. Hepatobiliary Pancreat Sci. Vol 21:777-785, 2014
96	中村 伸理子	消化器外科	Effectiveness and Sustainability of Education about Incident Reporting at a University Hospital in Japan	Healthcare Informatics Research Vol 20(3):209-215, 2014
97	武野 慎祐	消化器外科	Improvement of High-sensitivity Inflammation-based Glasgow Prognostic Score by Gastrectomy Is a Favorable Prognostic Factor in Patients with Gastric Cancer	ANTICANCER RESEARCH Vol 34:5695-5702, 2014
98	武野 慎祐	消化器外科	The High-Sensitivity Modified Glasgow Prognostic Score Is Superior to the Modified Glasgow Prognostic Score as a Prognostic Predictor in Patients with Resectable Gastric Cancer	Oncology Vol 87:205-214, 2014
99	吉田 陽一郎	消化器外科	Can grade 2 neutropenia predict the risk of grade 3 neutropenia in metastatic colorectal cancer patients treated with chemotherapy?	Support Care Cancer 2014 Nov 23. [Epub ahead of print]
100	佐々木 隆光	消化器外科	Serum CD10 is associated with liver metastasis in colorectal cancer	J Surg Res Vol 192:390-394, 2014
101	山田 哲平	消化器外科	Feasibility study of personalized peptide vaccination for advanced non-small cell lung cancer patients who failed two or more treatment regimens	Int J Oncol Vol 46(1):55-62, 2015
102	山名 一平	消化器外科	Is the Geriatric Nutritional Risk Index a Significant Predictor of Postoperative Complications in Patients with Esophageal Cancer Undergoing Esophagectomy?	European Surgical Research Vol 55:35-42, 2015
103	山浦 健	麻酔科	Effects of thermoregulatory vasoconstriction on pulse hemoglobin measurements using a co-oximeter in patients undergoing surgery.	J Clin Anesth 26(8): 643-7, 2014
104	山浦 健	麻酔科	Usefulness of sugammadex in a patient with Becker muscular dystrophy and dilated cardiomyopathy	Acta Anaesthesiol Taiwan 52(3): 146-148, 2014
105	岩下 耕平	手術部	Spontaneous Recovery of Paraplegia Caused by Spinal Epidural Hematoma after Removal of Epidural Catheter	Case Reports in Anesthesiology Volume 2014 (2014), Article ID 291728, 5 pages
106	岩下 耕平	手術部	Difficult Airway due to Retropharyngeal Hematoma after Stabbing to the Neck	Journal of Anesthesiology and Critical Care Medicine 1(4): 1-3, 2014
107	藤見 幹太	リハビリテーション部	Impact of a cardiac rehabilitation program on cardiac function after acute myocardial infarction.	Experimental and Clinical Cardiology 20:5, 3561-3564, 2014
108	漆山 大知	産婦人科、総合周産期母子医療センター	Predictive factors related to the efficacy of pelvic arterial embolization for postpartum hemorrhage: A retrospective analysis of 21 cases	Taiwanese Journal of Obstetrics and Gynecology (53:366-371, 2014)
109	松本 慎二	病理部	Upregulation of microRNA-31 associates with a poor prognosis of malignant pleural mesothelioma with sarcomatoid component.	Med Oncol, 31(12):303, 2014
110	岩崎 宏	病理部	Extensive lipoma-like changes of myxoid liposarcoma: morphologic, immunohistochemical, and molecular cytogenetic analyses.	Virchows Arch, Apr;466(4):453-64, 2015
111	宮原 聡	病理部	Clinicopathological analysis of pleomorphic carcinoma of the lung: diffuse ZEB1 expression predicts poor survival.	Lung Cancer 87(1):39-44, 2015

112	佐藤 啓介	病理部	Tumor budding in colorectal carcinoma assessed by cytokeratin immunostaining and budding areas: possible involvement of c-Met.	Cancer Sci. 105(11):1487-95, 2014
113	大久保 久美子	臨床検査部、 臨床検査医学	A novel mutation of CLCNKB in a Japanese patient of Gitelman-like phenotype with diuretic insensitivity to thiazide administration	Meta Gene 2, 342-348, 2014
114	安高 勇気	薬剤部, 福岡大学薬学部 (実務薬剤学, 薬学疾患管 理学)	Tumor necrosis factor- $\alpha$ reduces beta-amyloid accumulation primarily by lowering cellular prion protein levels in a brain endothelial cell line	FEBS Lett. 589(2), 263-268, 2015

合計 114

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	三浦 伸一郎	循環器内科	糖尿病・血管・循環器関連疾患。28 糖尿病では、アポA-1が糖化されるのですか？その臨床的意義はなんですか？	アンチエイジングのための100の質問 74-75, 2014
2	高田 耕平	循環器内科	肥満の合併症 高血圧・心疾患	臨床と研究 91(6):51-54, 2014
3	三浦 伸一郎	循環器内科	ARB/CCBまたはARB/利尿薬配合錠の血圧変動性に対する影響	臨床と研究 91(4):87-90, 2014
4	日高 有香	循環器内科	高ホモシステイン血症を呈した急性下肢動脈閉鎖症の一例	臨床と研究 91(7):105-107, 2014
5	中村 歩	循環器内科	カルベジロールが著効した無症候性冠攣縮を合併した多形性心室頻拍の一例	臨床と研究 91(8):120-123, 2014
6	権藤 公樹	循環器内科	慢性心不全の急性増悪時における24時間Plus wave analysisモニタリングの有用性について	臨床と研究 91(9):88-91, 2014
7	藤見 幹太	循環器内科	福岡大学病院における心臓リハビリテーション開始3年間の実績と今後の課題	臨床と研究 91(12):56-62, 2014
8	志賀 悠平	循環器内科	心臓リハビリテーション施行患者における唾液アミラーゼ測定の有用性	臨床と研究 92(2):76-79, 2015
9	足達 宣	循環器内科	アジルサルタンを新規に投与された高血圧患者における有用性	臨床と研究 92(2):122-126, 2015
10	則松 賢次	循環器内科	アピキサバンの抗血栓作用の日内変動を血栓形成能解析装置にて評価し得た1例	臨床と研究 92(3):130-133, 2015
11	入江 真	消化器内科	多彩な膝外病変を併発した高齢発症の自己免疫性膵炎の1例	日本臨床内科医会雑誌 Vol 29(1)113-117,2014
12	渡邊 隆	消化器内科	一卵性双生児に発症した腸管Behçet病の兄弟例	日本内科学会雑誌 Vol 103(7), 1702-1705,2014
13	横山 圭二	消化器内科	特発性門脈圧亢進症に伴う巨大な脾腎シャントにより慢性糸球体腎炎をきたしたと考えられた1例	日本門脈圧亢進症学会雑誌 Vol 21(1),38-43,2015
14	渡辺 憲太郎	呼吸器内科	IPPFEの臨床と病理・病態	日本胸部臨床 Vol73 1307-1319,2014
15	渡辺 憲太郎	呼吸器内科	上葉肺線維症とその治療/管理	呼吸器内科 Vol27(2) 149-152,2015
16	藤田 昌樹	呼吸器内科	Mycobacterium avium complexに対するsitafloxacinのMIC測定と肺非結核性抗酸菌症への応用	Jpn J Antibiot Vol67 395-400,2014
17	藤田 昌樹	呼吸器内科	肺非結核性抗酸菌 (NTM) 症 基礎と臨床	筑紫医師会報 筑紫 Vol39(3) 33-35,2015
18	藤田 昌樹	呼吸器内科	慢性アスペルギルス症に対するLiposomal amphotericin B間欠投与の試み	Jpn J Antibiot Vol67 205-210,2014

19	井形 文保	呼吸器内科	非小細胞癌に対するペメトレキセドによる維持療養中に生じた薬剤性肺炎の2例	呼吸 Vol34(2) 199-203,2015
20	廣瀬 伸一	小児科	てんかん遺伝子研究Update An Update on Genetic Research for Epilepsy	てんかん研究 (vol.32(1);51-54,2014)
21	石井 敦士	小児科	てんかんと遺伝子異常	日本臨床 (vol.72(5);796-802,2014)
22	石井 敦士	小児科	てんかんのゲノム診断	神経内科 (vol.80(6);690-697,2014)
23	鶴澤 礼実	小児科	軽症胃腸炎に伴うけいれんにおけるカルバマゼピン少量(2.5mg/kg)単回投与の有効性	てんかん研究 (vol.31(3);506-510,2014)
24	川谷 恵里	小児科	児童虐待と判断した急性薬物中毒入院例の背景	小児の精神と神経 (vol.54(2);157-164,2014)
25	西野 剛史	整形外科	外反母趾に対する遠位垂直骨切り術の手技と工夫	別冊整形外科66:143-146, 2014
26	吉村 一朗	整形外科	特集:足部疾患の画像診断—撮りかた・見かたのこつ— CT(1):足関節・足部のCT画像	Monthly Book Irthopaedics27(12):26-30, 2014
27	信藤 真理	整形外科	整形外科の腰痛症	臨床と研究91(11):1420-1426, 2014.
28	金澤 和貴	整形外科	Mau法による外反母趾の治療成績の検討	日本足の外科学会雑誌 35(1):137-140, 2014
29	稲光 秀明	整形外科	鎖骨遠位端骨折に対する骨接合術の治療成績	整形外科と災害外科63 (3):609-611, 2014
30	村岡 邦秀	整形外科	超音波検査によるpseudotumor診断	日本人工関節学会誌 44:375-376, 2014
31	南川 智彦	整形外科	K-Tプレートを用いた人工股関節再置換術の術後短期成績	日本人工関節学会誌 44:449-450, 2014
32	萩尾 友宣	整形外科	人工股関節再置換術後に生じたStress shieldingの経時的変化と臨床成績	日本人工関節学会誌 44:465-466, 2014
33	養川 創	整形外科	M/LTaper Kinectic TechnologyRを使用したTHAの短期成績とModular Neckの検討	日本人工関節学会誌 44:501-502, 2014
34	井田 敬大	整形外科	術前にC-reactive proteinが高値であったPrimary THAの治療経験	日本人工関節学会誌 44:549-550, 2014
35	渡邊 徳人	整形外科	人工股関節全置換術のアプローチによる臼蓋コンポーネント設置位置の検討—Posterolateral approach vs Direct anterior approach—	日本人工関節学会誌 44:557-558, 2014
36	永野 智子	整形外科	人工股関節再置換術における予防的抗凝固薬とD-dimer値の検討	日本人工関節学会誌 44:835-836, 2014
37	坂本 哲哉	整形外科	当院における人工股関節全置換術後の深部静脈血栓症の検討	日本人工関節学会誌 44:845-846, 2014

38	三宅 智	整形外科	肩峰外側突出と腱板不全断裂との関連—膨化像に着目して—	肩関節38(3):892-895, 2014
39	養川 創	整形外科	棘上筋腱・棘下筋腱断裂に合併した肩甲下筋腱損傷について	JOSKAS39(3):576-582, 2014
40	村岡 邦秀	整形外科	Pistol grip deformityの形態学的特徴	Hip Joint40:301-303, 2014
41	南川 智彦	整形外科	特発性大腿骨頭壊死症に対するTHAの術後成績	Hip Joint40:382-385, 2014
42	養川 創	整形外科	MaximLockシステムを使用したTHAの短期成績	Hip Joint40:564-567, 2014
43	萩尾 友宣	整形外科	T2 mappingを用いた術前寛骨臼関節唇評価と術中関節鏡所見との比較	Hip Joint40:877-880, 2014
44	渡邊 徳人	整形外科	白蓋形成不全における関節唇断裂合併症の検討	Hip Joint40:881-884, 2014
45	坂本 哲哉	整形外科	Femoroacetabular impingement (FAI)の頻度の検討	Hip Joint40:885-887, 2014
46	永野 智子	整形外科	寛骨臼回転骨切り術後のエドキサバン使用による静脈血栓症予防効果と出血の検討—フォンダパリヌクス、バイアスピリンとの比較—	Hip Joint40:927-929, 2014
47	大慈弥 裕之	形成外科	【乳癌に対するoncoplastic surgery】 乳房再建術 自家組織移植による乳房再建 遊離皮弁を用いた自家組織移植	臨床雑誌 外科 76(6):986-992,2014
48	大慈弥 裕之	形成外科	【見た目のアンチエイジングupdate】容顔老化のメカニズム	アンチエイジング医学 10(60):877-884,2014
49	重森 健	形成外科	超音波照射による抗菌薬の作用亢進を評価できる新規バイオフィルムモデルの構築	Bacterial Adherence & Biofilm 28:61-65,2014
50	川上 善久	形成外科	特集/陰圧閉鎖療法の理論と実際 上肢に対する陰圧閉鎖療法—植皮の固定としての陰圧閉鎖療法—	PEPARS 97:39-47,2015
51	大村 忠寛	脳神経外科、福岡市民病院 脳神経外科、病理部	Fatal Hemorrhage of a Supratentorial Extraventricular Anaplastic Ependymoma in an Elderly Patient	Med. Bull. Fukuoka Univ. 41(1):25-29, 2014
52	西見 優	心臓血管外科	当科におけるoff-pump CABGの現状と今後の課題	日本冠疾患学会雑誌 Vol. 20(2):111-117, 2014
53	山田 英明	心臓血管外科	心原性脳塞栓症発生後早期に手術を行った左房粘液腫の1例	胸部外科 Vol. 68(3):221-223, 2015
54	吉岡 努	救命救急センター、 脳神経外科	内視鏡手術による血腫除去を併用した破裂前交通動脈瘤に対するコイル塞栓術の治療成績	脳卒中の外科 42:25 - 30, 2014
55	重森 裕	救命救急センター、 脳神経外科	柔道における頭頸部顔面外傷の発生状況とその予防対策	臨床スポーツ医学 31(3):270 - 274, 2014
56	福田 宏幸	リハビリテーション部、 脳神経外科、神経内科	ロボットスーツHALに適した短下肢装具の工夫	脳神経外科速報 24(4):444 - 449, 2014

57	山本 澄子	看護部、脳神経外科、 神経内科	レモン果汁を用いた経腸栄養剤の半固化に関する体外および胃内での検討- 脳卒中急性期診療の工夫 -	脳神経外科速報 24(4):444 - 449, 2014
58	左村 和宏	リハビリテーション部、 脳神経外科、神経内科	ニューロモジュレーションとしてのロボットスーツHAL: モーションレコーダーによるHAL訓練前後での歩行運動評価の検討	機能的脳神経外科 53:56 - 60, 2014
59	古賀 文二	皮膚科	神経線維腫症1型の身長、体重(BMI)、合併症に関する患者対照研究	日本レックリングハウゼン 病学会雑誌 Vol 5(1) 50-53, 2014
60	佐藤 千江美	皮膚科	NF1神経線維腫より採取した線維芽細胞およびシュワン細胞に対するrapamycinおよびlovastatinの効果について	日本レックリングハウゼン 病学会雑誌 Vol 5(1) 55-58, 2014
61	加来 裕美子	皮膚科、病理学科	自然消退、発症を繰り返したCD30陽性成人T細胞性白血病リンパ腫の1例	西日本皮膚科 Vol 76(3) 210-213, 2014
62	古賀 文二	皮膚科、病理学科	菌状息肉症との鑑別が困難であったPeripheral T-cell Lymphoma, Not Otherwise Specifiedの1例	西日本皮膚科 Vol 77(1) 37-42, 2015
63	寺脇 志帆	皮膚科、病理学科	脱分化型脂肪肉腫との鑑別にFISH法が有用だった未分化型多形性肉腫/悪性線維性組織球腫の1例	西日本皮膚科 Vol 77(1) 47-50, 2015
64	笹本 聖人	皮膚科	Verrucous hemangioma(疣状血管腫)の1例	臨床皮膚科 Vol 69(2) 126-129, 2015
65	田中 正利	泌尿器科	平成25年度福岡市における前立腺がん検診	福岡市医報 Vol56(1)1-6,2105
66	田中 正利	泌尿器科	総説ビデオ 泌尿器腹腔鏡手術ガイドライン2014年度版	Audio-Visual Journal of JUA 21(1)21-1,2105
67	宮島 茂郎	泌尿器科	精嚢由来平滑筋腫の1例	日本泌尿器科学会雑誌 Vol 105(3)144-148,2014
68	古屋 隆三郎	泌尿器科	回腸を利用した代用尿管術後29年目に発生した腺癌の1例	西日本泌尿器科 Vol77(3)95-100,2015
69	城田 京子	産婦人科	不定愁訴に対する漢方薬の有効性に関する検討	産婦人科漢方研究のあ ゆみ (31:60-64, 2014)
70	倉員 正光	産婦人科、総合周産期母子 医療センター	Rapid progression of Nulliparous labor increases the risk of preterm delivery in a subsequent pregnancy	Med Bull Fukuoka Univ (41:65-70- 2014)
71	小沢 昌彦	眼科	春季カタルの臨床像の最近5年間における推移	臨床眼科 Vol68:799-804, 2014
72	尾崎 弘明	眼科	Ex-PRESSTM併用濾過手術の術後短期成績	臨床眼科 Vol68: 1117-1121, 2014
73	上野 登喜生	福岡大学病院放射線部	DICOM Radiation Dose Structured Reportを利用した血管撮影部門における放射線管理データベースの有用性	日本放射線技術学会雑 誌 70(12): 1392-1402 2014
74	吉満 研吾	放射線科	Gd-EOB-DTPA造影MRIによる肝腫瘤診断の基本的考え方	画像診断34(7): 685- 695 2014
75	吉満 研吾	放射線科	最新肝癌学-基礎と臨床の最新研究動向- VIII 発癌予後因子としての線維化進展度診断 MR elastography	日本臨床 増刊号 1 73 (suppl 1): 382-386 2014

76	吉満 研吾	放射線科	MR Touch Update	GE today vol 46, p18-20 2014
77	高野 浩一	放射線科	Embryonal tumors (髄芽腫、大細胞性髄芽腫、原始神経外胚葉性腫瘍、上衣芽腫、非定型奇形腫様/ラブドイド腫瘍)	WHO分類による脳腫瘍のMRI 興裕征典(監修), 安陪等思(編) p93-104, 2014株式会社
78	藤光 律子	放射線科	総論 5. 画像診断 F 超音波検査	入門腫瘍内科学(監) 日本臨床腫瘍学会 p67-69, 株式会社 篠原出版新社
79	納 彰伸	放射線科	Focal fatty change in the liver that developed after cholecystectomy	World J Radiol 6(12): 932-936 2014
80	吉満 研吾	放射線科	第1章 成人脊椎の撮像技術、第2章 傍脊柱軟部組織	画像でみる脊椎・脊髄その基礎と臨床(和訳) 塩田悦仁(監訳) p 1-43, 医歯薬出版株式会
81	山下 真一	放射線科	第3章 正常な脊柱: 概要と頸椎	画像でみる脊椎・脊髄その基礎と臨床(和訳) 塩田悦仁(監訳) p 47-77, 医歯薬出版株式会
82	高野 浩一	放射線科	第4章 正常な脊柱: 胸椎、腰椎、尾骨、第5章 正常な脊髄と髄膜	画像でみる脊椎・脊髄その基礎と臨床(和訳) 塩田悦仁(監訳) p 1-43, 医歯薬出版株式会
83	田村 和夫	腫瘍・血液・感染症内科	Multicenter phase II study of mogamulizumab (KW-0761), a defucosylated anti-cc chemokine receptor 4 antibody, in patients with relapsed peripheral T-cell lymphoma and cutaneous T-cell lymphoma.	J Clin Oncol 32(11): 1157-1163, 2014
84	田村 和夫 石塚 賢治	腫瘍・血液・感染症内科	Evaluation of regional cerebral glucose metabolism in patients with malignant lymphoma of the body using statistical image analysis.	Ann Nucl Med 28(10): 950-960, 2014
85	高松 泰	腫瘍・血液・感染症内科	Efficacy and safety of dasatinib versus imatinib in Japanese patients with newly diagnosed chronic-phase chronic myeloid leukemia (CML-CP): Subset analysis of the DASISION trial with 2-year follow-up.	Int J Hematol 99: 141-153, 2014
86	石塚 賢治	腫瘍・血液・感染症内科	Gene expression profiling of Epstein-Barr virus-positive diffuse large B-cell lymphoma of the elderly reveals alterations of characteristic oncogenetic pathways.	Cancer Sci 105(5): 537-544, 2014
87	田村 和夫 石塚 賢治	腫瘍・血液・感染症内科	Japan Clinical Oncology Group (JCOG) prognostic index and characterization of long-term survivors of aggressive adult T-cell leukaemia-lymphoma (JCOG0902A).	Br J Haematol 166(5): 739-48, 2014
88	高田 徹	腫瘍・血液・感染症内科	Antibiotic susceptibility survey of blood-borne MRSA isolates in Japan from 2008 through 2011.	J Infect Chemother 20(9):527-34, 2014
89	高田 徹	腫瘍・血液・感染症内科	福岡大学筑紫病院におけるMethicillin-resistant Staphylococcus aureus (MRSA) 臨床分離株の検出状況及び各種抗菌薬に対する感受性の推移2008~2012	薬学雑誌 134(02): 269-276, 2014
90	高田 徹	腫瘍・血液・感染症内科	Linezolid minimum inhibitory concentration (MIC) creep in methicillin-resistant Staphylococcus aureus (MRSA) clinical isolates at a single Japanese center.	Biol Pharm Bull 37(4): 679-82, 2014
91	高田 徹 戸川 温	腫瘍・血液・感染症内科	薬剤師によるテイコプラニンの個別化初期投与設計の必要性-SIRSスコアを用いることの有用性の検討-	薬学雑誌 134(12): 1367-73, 2014
92	高田 徹 戸川 温 高松 泰	腫瘍・血液・感染症内科	A simple high-performance liquid chromatography for the determination of linezolid in human plasma and saliva.	Biomed Chromatogr 2015 Feb 10. doi: 10.1002/bmc.3441. [Epub ahead of print]
93	野見山 崇	内分泌・糖尿病内科	Dpp4阻害薬リナグリプチンの血管保護効果	日本体質学会雑誌 76:66-67, 2014
94	笹富 佳江	腎臓・膠原病内科	ステロイド療法のこつ - 腎疾患。	臨床と研究 91; 477-482, 2014

95	坪井 義夫	神経内科	Parkinsons病患者を対象としたpramipexole速放錠から徐放錠への切り替え方法の検討	神経治療学 (31巻 3号 349-353)
96	横手 顕	神経内科	発作性心房細動にカテーテルアブレーション療法を行い、繰り返す失神発作が改善したParkinson病の1例.	神経治療学 (31: 197-201, 2014)
97	津川 潤	神経内科	多発脳神経麻痺を呈したIgG4関連肥厚性硬膜炎の1例.	BRAIN and NERVE (66: 873-878, 2014)
98	津川 潤	神経内科	感冒症状を契機として発症したpure trigeminal motor neuropathyの1例.	臨床神経 (54: 515-517, 2014)
99	深江 治郎	神経内科	Benign tremulous parkinsonismで両側視床下核-深部脳刺激術が有効であった1例	臨床神経学 (54(6):511-514,2014.)
100	小倉 玄睦	神経内科	再発性多発軟骨炎を伴った辺縁系脳炎の1例	NEUROIMAGING CONFERENCE 筑後・佐賀症例集 (18: 71-74,2014)
101	坪井 義夫	神経内科	【アミロイド関連神経疾患のすべて-封入体筋炎からアルツハイマー病まで】プリオン病とアミロイド	BRAIN and NERVE (66: 849-855,2014)
102	緒方 利安	神経内科	【血栓症治療ガイドラインup-to-date】脳 急性期虚血性脳血管障害患者の早期治療についてのガイドライン	血栓と循環 (22:19-20,2014)
103	緒方 利安	神経内科	【もう迷わない!すべきこと&してはいけないことが一目瞭然!脳神経疾患看護のdo&donot】(2章)機能評価に関するdo&donot.	Brain Nursing (31-43,2014)
104	緒方 利安	神経内科	非侵襲的血管機能評価法の進歩 頸部血管エコー検査	臨床病理 (62:862-867,2014)
105	木村 聡	神経内科	【神経症候群(第2版)-その他の神経疾患を含めて-】変性疾患 脊髄小脳変性症 遺伝性プリオン病 グルタミン・シユトロイヌラー・シャインカー病	日本臨床; 別冊神経症候群II (pp.456-460,2014)
106	坪井 義夫	神経内科	【神経症候群(第2版)-その他の神経疾患を含めて-】変性疾患 錐体外路系疾患 パーキンソニズムを主とする疾患 Perry症候群	【神経症候群(第2版)-その他の神経疾患を含めて-】変性疾患 錐体外路系疾患 パーキンソニズムを主とする疾患 家族性パーキンソン病 優性遺伝性パーキンソン症候群 2番染色体に連鎖する遺伝性パーキンソン病(PARK3、PARK11、PARK13)
107	深江 治郎	神経内科	【神経症候群(第2版)-その他の神経疾患を含めて-】変性疾患 錐体外路系疾患 パーキンソニズムを主とする疾患 家族性パーキンソン病 優性遺伝性パーキンソン症候群 2番染色体に連鎖する遺伝性パーキンソン病(PARK3、PARK11、PARK13)	日本臨床 別冊神経症候群II (pp.73-76 ,2014)
108	坪井 義夫	神経内科	A型ボツリヌス毒素(BTX-A)療法	医学書院 (pp.827-828,2014)
109	坪井 義夫	神経内科	解剖に基づく鑑別診断:眼球運動系. イラストでわかる神経症候	丸善出版 東京 (pp.422-469,2014)
110	坪井 義夫	神経内科	プリオン病の治療	プリオン病診療ガイドライン(pp.32-33,2014)
111	原賀 勇壮	麻酔科	ブドウ球菌塗布後の創面の経時的変化 一創感染動物モデルを用いた研究	日本ペインクリニック学会誌 21(2): 86-91, 2014
112	安部 伸太郎	手術部	ブランジャーの往復運動による使い捨て注射器内側の細菌汚染	日本ペインクリニック学会誌 21(4): 506-510, 2014
113	山浦 健	麻酔科	医療ガスの処理	臨床麻酔 38(10): 1429-1434, 2014

114	山浦 健	麻酔科	周術期の線溶系の変化と抗線溶療法	Thrombosis Medicine 4(4): 327-332, 2014
115	福田 宏幸	リハビリテーション部	ロボットスーツHALに適した短下肢装具の工夫	脳神経外科速報 24(4):444~9,2014
116	藤見 幹太	リハビリテーション部	福岡大学病院における心臓リハビリテーション開始3年間の実績と今後の課題	臨床と研究 91:12, 56-62, 2014
117	倉員 正光	産婦人科、総合周産期母子医療センター	Rapid progression of Nulliparous labor increases the risk of preterm delivery in a subsequent pregnancy	Med Bull Fukuoka Univ (41):65-70- 2014)
118	瀬戸上 貴資	小児科、総合周産期母子医療センター	Klebsiella pneumoniaeによる超早発型敗血症をきたした超低出生体重児の1例	日本周産期・新生児医学会雑誌(2014;50:1032-1036)
119	鍋島 茂樹	総合診療部	インフルエンザにおける漢方療法	カレントセラピー2014 Vol.32No.1
120	鍋島 茂樹	総合診療部	外来処方箋からみた慢性腎臓病(CKD)患者におけるオピオイド処方の検討	緩和ケア Vol.24 No.2
121	坂中 博昭	総合診療部	不明熱の原因が膿腎症であった長期透析患者の1経験例	日本病院総合診療医学会雑誌 第8巻 第1号8-12
122	相知 優子	病理部	腹水中の卵巣癌細胞の形態学的検討.	日本臨床細胞学会九州連合会雑誌,45: 87-92, 2014
123	松永 彰	臨床検査部、臨床検査医学	Apolipoprotein E mutations: a comparison between lipoprotein glomerulopathy and type III hyperlipoproteinemia	Clin Exp Nephrol 18:220-224,2014
124	松永 彰	臨床検査部、臨床検査医学	Tangier病 アポリポタンパクA-1欠損症・異常症	先天性代謝異常ハンドブック pp.386-389,2014
125	松崎 友絵	臨床検査部	福岡大学病院遺伝医療室における遺伝カウンセリング症例の解析:カウンセリング前後の遺伝子検査施行状況について	日本臨床検査自動化学会誌(JJCLA) 39(3):356-360,2014
126	藤 洋美	臨床検査部	敗血症診断におけるプロカルシトニン測定の有用性	臨床病理 62(10):931-936,2014
127	伊澤 久美子	看護部(6階西病棟)	科学療法を受ける消化器がん患者の気がかりの特徴	日本看護学会論文集 慢性期看護 第45回 27~30、2015
128	西山 明子	看護部(総合周産期母子医療センター 産科部門)	PNSにおける新人助産師に影響を与えたペアの関わりについて	日本看護学会論文集 看護教育 第45回 262~265、2015
129	中原 明日香	看護部(3階北病棟)	PNSにおける暗黙知獲得に向けた気づきの言語化や共有化の実態	日本看護学会論文集 看護管理 第45回 7~10、2015
130	安永 馨	看護部(3階西病棟)	壮年期にある眼疾患患者の転倒転落防止に対する疑似体験を取り入れた術前オリエンテーションの効果	日本看護学会論文集 急性期看護 第45回 11~14、2015
131	平良 沙紀	看護部(手術部)	外科系集中治療室における高齢者の消化器外科術後患者の離床阻害要因	日本看護学会論文集 急性期看護 第45回 123~126、2015
132	岡村 亜紗美	薬剤部	薬剤師と看護師の協働によるインスリン自己注射導入指導	日本病院薬剤師会雑誌 50(6), 739-743, 2014

133	高瀬 久光	薬剤部, 北陸入子薬子部 (臨床薬学教育センター), 福岡大学医学部(耳鼻咽喉科)	Irsogladine Maleate Reduces Radiotherapy or Chemoradiotherapy Oral Mucositis in Patients with Head and Neck Cancer	日本緩和医療薬学雑誌 7(3), 71-76, 2014
134	古賀 亜矢子	薬剤部	授乳婦への個別指導の評価	日本病院薬剤師会雑誌 50(8), 1025-1028, 2014
135	土倉 史香	薬剤部	テラプレビルを含む3剤併用療法における薬学的管理	九州薬学会会報 68, 7-10, 2014
136	中野 貴文	薬剤部, 福岡大学薬学部(臨床疾患薬理学), 救命救急センター, 福岡大学医学部(腫瘍血液感染症内科)	薬剤師によるテイコプラニンの個別化初期投与設計の必要性-SIRSスコアを用いることの有用性の検討-	薬学雑誌 134(12), 1367-1373, 2014
137	安高 勇気	薬剤部, 福岡大学薬学部(実務薬剤学), 福岡大学医学部(生化学, 臨床検査医学)	薬剤アレルギー同定の効率化に関する基礎的検討 -1次スクリーニングとしての細胞動態解析-	医療薬学 41(1), 11-17, 2015
138	大塚 誠	薬剤部	医学生臨床実習における病院医薬品集の教育参考書としての有用性と医学生が求める医薬品情報	医薬品情報学 16(4), 179-185, 2015
139	中野 貴文	薬剤部	薬剤師によるテイコプラニンの個別化初期投与設計の必要性-SIRSスコアを用いることの有用性の検討-	YAKUGAKU ZASSHI 134(12):1367-73, 2014
140	戸川 温	腫瘍・血液・感染症内科	①ICT, ICDの役割 施設規模・施設状況で考える感染対策 -違いを踏まえたICT活動戦略	感染対策ICTジャーナル (8(4):293-29, 2013)
141	高田 徹	感染制御部	耐性病原体 up-to-date ~耐性メカニズムから治療戦略まで~ II. 耐性病原体 2. グラム陰性菌 (5)多剤耐性アンネトバクター	化学療法の領域 30(S-1) 111-120, 2014.

合計 141

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 臨床研究に係わる標準業務手順書 臨床研究審査委員会標準業務手順書	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 臨床研究利益相反ポリシー 臨床研究利益相反マネジメント委員会内規	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容 指針内容説明、利益相反	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- ・循環器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・消化器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・呼吸器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・精神神経科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・小児科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・呼吸器・乳腺内分泌・小児外科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・整形外科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・形成外科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・脳神経外科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別紙資料参照）
- ・心臓血管外科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別紙資料参照）
- ・皮膚科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・泌尿器科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別紙資料参照）
- ・産婦人科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別紙資料参照）
- ・眼科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・耳鼻咽喉科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）
- ・放射線科後期臨床研修プログラムに基づく研修（別添資料参照）

2 研修の実績

研修医の人数	72.0 人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
朔 啓二郎	循環器内科	診療部長	37年	
向坂 彰太郎	消化器内科	診療部長	36年	肝胆膵 領域
渡辺 憲太郎	呼吸器内科	診療部長	38年	
西村 良二	精神神経科	診療部長	36年	
廣瀬 伸一	小児科	診療部長	35年	
岩崎 昭憲	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	診療部長	32年	
伊崎 輝昌	整形外科	診療部長	26年	
大慈 弥 裕之	形成外科	診療部長	35年	
井上 亨	脳神経外科	診療部長	35年	
田代 忠	心臓血管外科	診療部長	38年	
今福 信一	皮膚科	診療部長	24年	
田中 正利	泌尿器科	診療部長	35年	
宮本 新吾	産婦人科	診療部長	32年	日本婦人科腫瘍学会専門医
内尾 英一	眼科	診療部長	30年	
中川 尚志	耳鼻咽喉科	診療部長	29年	
吉満 研吾	放射線科	診療部長	29年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・内容 院内教育（全職員対象） ・研修の期間・実施回数 平成26年度 11回開催
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・内容 新採用者に対する研修 ・研修の期間・実施回数 毎年4月上旬～中旬・1回 ・研修の参加人数 145名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 メディカルセミナー ・研修の実施回数 平成26年度 6回開催（第14回～第19回） ・研修の参加人数 728名

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 田村和夫
管理担当者氏名	庶務課長 菊池 孝志 医事課長 赤木 須美男 医療情報部事務室長 金森 勝俊 放射線部技師長 田中 稔 薬剤部長 二神 幸次郎

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	庶務課、医療情報部、放射線部、薬剤部、手術部、看護部、臨床検査部、病理部	<p>・平成21年8月5日より、入院診療録及び外来診療録とも電子カルテの運用を開始。電子カルテシステム稼働以前の、紙に記載された入院診療録は、入院期間ごとに作成されターミナルデジタル方式にて分類保管し、外来診療録は全診療科共通として作成され、患者番号順に保管。電子カルテシステムにおいても紙診療録と同様に、全て一患者一登録番号で管理している。電子カルテシステム稼働後に作成された紙診療録は、前述の入院診療録、外来診療録と同様に入外別に保管。なお、入院診療録は最終来院日から20年間、外来診療録は15年間保管され、それ以上経過したものは廃棄。手術記録、看護記録、検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書はそれぞれの診療録に保管。</p> <p>・2011年1月より放射線部画像はマンモグラフィを除いてデジタル化して医療情報部サーバー室にて管理・保存、過去フィルムとマンモグラフィはフィルム庫で保存フィルム管理室で管理・保存を行っている。</p> <p>・処方せん：薬剤部内で保管し2年を経過後月単位で廃棄（平成27年度より3年保管に変更）</p> <p>薬剤管理指導記録：直接電子カルテ記事に記載を原則としている。一部PICS（薬剤管理指導支援システム）から電子カルテに送信、各患者カルテに保管。同記録はPICS上でも確認可能。棟薬剤業務日誌：薬剤部で保管（電子媒体）</p> <p>・病理組織、細胞診、剖検診断書は病理システムに保管し、紙媒体としての保管は医療情報部カルテ保管庫および病理部の鍵のかかる書庫に保管。</p>
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課
	高度の医療の提供の実績	庶務課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課
	高度の医療の研修の実績	庶務課
	閲覧実績	庶務課、医療情報部
紹介患者に対する医療提供	地域医療連携	平成26年度 紹介率集計表（帳票管理）

	の実績	センター	理)	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	庶務課 医事課 薬剤部	入院患者日報・月報・年報（帳票管理） 外来患者日報・月報・年報（帳票管理）	
第規 一則 号第 に一 掲条 げの る十 体一 制第 の一 確項 保各 の号 状及 況び 第九 条の 二十 第一 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	医療安全管理部にて一括管理 以下項目、上記と同じ	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部		
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部		
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部		
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部		
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部		感染制御部にて管理
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部		医療安全管理部にて一括管理 以下項目、上記と同じ
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部			

		保管場所	管理方法		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一條	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部及び庶務課にて管理 以下項目、上記と同じ		
	第一條の十一	院内感染対策のための委員会の開催状況		感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況		庶務課 感染制御部 医療安全管理部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況		感染制御部	
	第一項各号及び第九條	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況		薬剤部	薬剤師長が医薬品安全管理責任者に任命されている 薬剤部にて一括管理 以下項目、上記と同じ
		従業者に対する医薬品の安全使用のための		薬剤部	

の 二 十 三 第 一 項 第 一 号 に 掲 げ る 体 制 の 確 保 の 状 況	研修の実施状況		臨床工学センターにて一括管理 以下項目、上記と同じ
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学センター	
	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター	
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	事務長 奥菌邦広	
閲覧担当者氏名	庶務課長 菊池孝志、医事課長 赤木須美男 医療情報部事務室長 金森勝俊	
閲覧の求めに応じる場所	病院B会議室	
閲覧の手続の概要		
閲覧希望者は、閲覧受付窓口である庶務課に諸記録を閲覧したい旨を申し出る。閲覧受付窓口は、これを受け閲覧担当者に連絡し、日程調整のうえ、閲覧担当者同席のもと病院B会議室で諸記録を閲覧する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：            1. 安全管理に関する基本的考え方 2. 安全管理のための委員会および院内の組織に関する基本事項 3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針 4. 安全確保を目的とした改善策を講ずるための基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 (下記参照) 回
<p>・ 活動の主な内容：            1. 医療安全管理委員会 (月に 1 回) 2. 医療安全管理部小委員会 (月に 1 回)            3. セーフティーマネージャー会 (月に 1 回) 4. 医療安全カンファレンス (週に 1 回)</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 7 回
<p>・ 研修の主な内容：別紙参照            (医療安全院内教育 1 2 回、医療安全実践セミナー 9 回、BLS 講習会 6 回)</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 無)            ・ その他の改善のための方策の主な内容：            ①医療事故・合併症・重要なインシデント事例の検討・医療安全教育の企画。②医療安全管理者が抽出したインシデント事例を医療安全管理部小委員会で検討し、改善を要するものはセーフティーマネージャー会を通じて伝達している。また、全職員にコンピューター上で会議資料を公開し、安全管理・危機管理意識の向上に努めている。③医療安全管理部長および医療安全管理者は、事故・インシデント・合併症発生時など、必要に応じて当事者、当該部署と個別に対応し指導する。特に重要事例に関しては、検討会を開いて、迅速な対応を心掛けている。④病院全体の問題として取り上げる必要がある事例は、医療安全管理委員会に提言し、安全管理の改善に役立てる。⑤「安全管理レポート」(毎月)と「医療安全情報」(適時)を発行し、全職員へフィードバックおよび周知徹底を図っている。⑥医療安全管理院内ラウンドを月 1 回実施し、現状把握および周知徹底を図っている。</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 無
<p>・ 所属職員： 専任 (7) 名 兼任 (3) 名            ・ 活動の主な内容：            &lt;医療の安全管理&gt; ①安全管理に係る会の運営 ②医療事故発生時の対応 ③医療安全に係る連絡調整 ④医療事故防止に向けた内部監査 ⑤インシデント報告・アクシデント報告の分析 ⑥安全管理に関する教育・研修 ⑦安全管理レポート・医療安全情報の発行            &lt;患者からの相談&gt; 患者からの苦情相談への対応</p>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無

(様式第 6)

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 院内感染対策に関する基本的考え方 2. 院内感染対策のための委員会および院内の組織に関する基本事項 3. 感染対策に関する教育・研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応 6. 感染対策の閲覧に関する基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容： ・ 感染対策委員会 (1 回/月) ・ 感染制御部会議 (1 回/月) ・ セーフティマネージャー会議 (1 回/月) ・ 看護部部内感染対策委員会 (1 回/月)	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 9 回
・ 研修の主な内容：別紙参照 (医療安全院内教育 4 回、医療安全実践セミナー 5 回)	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	(有・無)
・ 病院における発生状況の報告等の整備 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 1 回/週、ICT (ICD、ICN、細菌検査技師、薬剤師) が病棟ラウンドを行い、耐性菌サーベイランスを実施する。病棟ラウンドに際しては、資料 (細菌検査室で全部署 2 週間分の分離菌一覧表、薬剤部で抗MRSA使用患者一覧表、カルバペネム系抗菌薬使用患者一覧表、ICNが病棟別耐性菌検出患者一覧表、ラウンドシート) を準備する。 2. 環境ラウンドの実施とフィードバック (病棟部門、外来部門) (5 月、8 月、11 月、1 月、3 月) 3. 感染対策システム (電子カルテ端末上) で毎日、血液培養陽性者、抗酸菌陽性者、新規多剤耐性菌検出患者等の報告を確認する。 4. 院内感染を疑う場合には感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応する。 5. 行政への報告対応が必要な場合には、感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応する。 6. アウトブレイク等問題が発生した部署については、当該部署のスタッフを対象に研修会を開催する。アウトブレイク介入事例については、病院職員に対して、電子カルテ端末上で通知、診療部長会、セーフティマネージャー会を通じて感染対策について周知徹底を図る。	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年10回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>毒薬・劇薬について</li><li>化学療法の安全な投与</li><li>危険薬剤の使用に関する知識</li><li>インスリンの正しい知識と使い方</li><li>簡易懸濁法について</li><li>知っておくべき薬剤の知識（注射薬について）</li></ul></li></ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>手順書の作成 (有・無)</li><li>業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>○医薬品の採用；薬事委員会において採用可否審議（薬剤部は事務局）、医薬品安全管理責任者は委員として参加</li><li>○医薬品の管理；期限管理等を確認表を用いて各部署にて確認。月単位で医薬品安全管理責任者が確認。新規の重点管理薬に対しての手順策定など。</li><li>○患者に対する医薬品の投薬時から調剤までに関する事項；ハイリスク薬品の調剤手順に従って調剤等。病棟巡回などで確認</li><li>○患者に対する与薬や服薬指導に関する事項；バーコードによる3点認証導入。薬剤管理指導の推進（持参薬管理から退院時指導まで）</li><li>○医薬品情報の収集・管理・提供；医薬品情報室による情報収集と必要に応じた情報の提供推進。特に安全性にかかわる情報の発信。副作用情報の収集・一元管理。</li><li>○他施設との連携；持参薬管理による持ち込み医薬品の確認。退院時指導による入院中使用する医薬品、副作用等の情報をおくすり手帳を介して提供する体制作り</li></ul></li></ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) 薬剤部医薬品情報室が中心となって収集作業を行う</li><li>その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>病棟担当薬剤師を通じた情報提供、副作用情報の収集</li><li>間違いやすい医薬品保管棚への注意喚起</li></ul></li></ul>	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年123回
<p>・ 研修の主な内容： 新規導入機器の研修 21回 : 新規・その他各種研修の主な内容は 人工呼吸器・生体情報モニター・輸液ポンプ・シリンジポンプの実践セミナー、内視鏡機器、血液浄化装置、除細動装置、保育器、補助循環装置、麻酔器、大動脈内バルーンポンプ装置、電気メス、低圧持続吸引器、体温維持管理装置、電動油圧手術台、循環動態モニター、レーザー、超音波剪刃。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器装置、AED、閉鎖式保育器、麻酔器、シリンジポンプ、輸液ポンプ、経腸栄養ポンプ、生体情報モニター、医用テレメータ、パルスオキシメータ、12誘導心電計、低圧持続吸引器、ファイバ洗浄機、電気メス、電動油圧手術台、超音波・非加熱式ネブライザー、逐次型空気圧式メッサージ器、開放式保育器、体温管理装置、体外式心臓ペースメーカ、顕微鏡、ポータブル吸引器、外科用内視鏡装置、自己血回収装置、眼科関連機器、内視鏡センター関連機器。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 情報収集：医薬品医療機器総合機構、日本臨床工学技士会、日本医療機能評価機構、日本医療安全調査機構、その他学会による安全情報の収集、メーカーによる安全情報の収集 情報の周知：院内セーフティーマネージャー会による周知 院内オーダリング画面上に安全情報の掲載 関連部署への資料配布 医療機器の安全使用：臨床工学技士の研修、医療従事者への説明会</p>	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
【機関名】日本医療機能評価機構 【時期】平成26年11月22日付け 認定継続	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>近隣の地域に対する情報発信として、各種セミナーを開催している。</p> <p>1つ目は、地域連携の促進・強化を目的として、地域の医療関係者を対象に、福岡市医師会との共催で「福岡大学病院メディカルセミナー」を開催している。</p> <p>このセミナーは、各診療科の診療技術や研究内容、病院としての取組について、当院の医師が講演やパネルディスカッションを行うもので、平成26年度は6回開催した。</p> <p>2つ目は、地域の一般市民を対象にした「学んで予防！《福大病院 健康セミナー》」である。</p> <p>このセミナーは、城南区役所や城南保健所、城南校区の自治協議会や公民館の協力のもと、地域の皆さまが知りたいと思っている「健康や病気の予防」をテーマに、当院の医師と城南区医師会推薦の医師との協同で毎月1回開催しており、毎回300名を超える地域の皆さまの参加があり、好評を得ている。</p> <p>3つ目は、地域がん診療連携拠点病院として、がん患者やそのご家族、そして一般の方を対象に「福岡大学病院がんセミナー」を開催している。</p> <p>このセミナーは、がん治療の最前線の情報や各種がんの診断・治療・手術等の診療技術に関すること、また、がん治療中の薬物療法や食事療法、治療中の社会生活に関することなど、がんについてあらゆる知識や情報を発信するものとして毎年6回から8回開催している。</p>	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>2科以上の診療科がセンターとして外来診療を行っている。</p> <p>「腎・泌尿器・膠原病センター」→腎臓・膠原病内科、泌尿器科 「消化器センター」→消化器内科、消化器外科 「呼吸器センター」→呼吸器内科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科 「女性診療センター」→産婦人科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科 「皮膚科・形成外科・美容医療センター」→形成外科、皮膚科 「ハートセンター」→循環器内科、心臓血管外科 「小児医療センター」→小児科、小児外科</p>	